

VI 平成 19 年度愛知県図書館サービス計画

この計画は、愛知県図書館の基本理念に基づき、19 年度中に行う図書館サービスを示し、達成すべき数値目標を明らかにするものです。図書館では、18 年度初めてサービス計画を作成しました。計画では、システム更新に伴う新サービスの検討、資料収集の幅や種類についての再検討、そしてレファレンス、市町村立図書館支援、利用者層に応じたサービス等基本的なサービスの充実を挙げました。始めに計画がどの程度達成できたのかを確認し、その上で 19 年度の計画を示します。

1 18 年度の図書館サービスの評価

(1) 電算システム更新に伴う新サービスの実施

新サービスの検討では、インターネットによる貸出中図書や整理中図書への予約を行うことになりました。しかし、人的な負荷の大きい在架図書の予約は見送らざるを得ませんでした。

(2) 資料収集

予算の増加、備品費（5000 円以上の資料）と需用費（5000 円未満の資料）の割合の変更により、17 年度に比べ 135%以上の冊数の図書を購入することができました。特に、子育て、介護、ビジネス関連、地域文化資料については、重点的に購入しました。また、資料収集委員会を設置し選書方針等について検討を行いました。しかし、数値目標として設定した満足度調査の「本と雑誌の質や量」の満足度 3.2 ポイントは達成できませんでした（3.1 ポイント、17 年度は 3.0 ポイント）。

(3) レファレンスサービス

レファレンスサービスは、目標であった 30,000 件（105%）を大きく超え、31,807 件（112%）になりました。しかし、レファレンスの周知が大きく進んだとはいえ、またデータベースやレファレンストールの作成への取組みも十分とはいえませんでした。

(4) 市町村立図書館への支援

県内市町村立図書館等への貸出冊数は 13,056 冊で目標（13,000 冊）をクリアすることができました。18 年度は、実証実験として大学図書館との定期搬送便を設定し、県内の資料提供ネットワークの強化を進めました。また、図書館設置についての助言等の援助活動も進めることができました。

(5) 利用者の特性に応じたサービスの展開

ビジネス情報の提供では、資料面の充実をはかるとともに、ミニ展示の実施、ビジネス資料ガイドの定期発行、館報「あゆち」特集号の発行等、アピールを活発に行いました。少子、高齢化に対応した資料の提供では、重点的な資料購入を行うとともに、子育て関係、介護関係の 2 回の資料展示を行いました。児童に対するサービスでは、夏休みの連続お話し会の実施等により新たな利用者に来館していただくことができました。児童資料の貸出点数も 70,290 冊（106%）で、数値目標を達成しました。18 年度コーナーを拡大したティーンズコーナーは、テーマ展示やブックリストの発行もあり、順調に利用を伸ばしています。また、18 年度に新たに作った多文化サービスコーナーも徐々にではあるが、利用者を獲得しつつあります。

(6) 総括

数値目標は、「本と雑誌の量や種類」の満足度を除き達成できました。しかし、レファレンスや協力貸出しの利用者への周知など図書館を知っていただく仕事はまだ不十分で、今後も引き続き力を注いでいく必要があると思われます。大小の展示、お話し会や高等学校でのブックトークの試み等これまでになく積極的な事業展開がなされたことは、評価できるのではないかと考えています。

2 平成 19 年度のサービス計画の基本的な考え方

今年度から祝日も開館し、より多くの方に図書館をご利用いただけるようにします。資料収集では、18 年度に引き続き幅広い資料の収集を実現します。ビジネス情報、医療・健康・介護・子育てに関する資料、青少年向けの資料、在住外国人のための資料も引き続き充実させて行きます。18 年度に実施した「協力・支援活動についてのアンケート」の結果を踏まえ、市町村立図書館支援の充実を目指します。図書館事業の中には、県民の方々との協働で実現していくことがふさわしいものがあります。また、図書館という場を県民の皆様の社会活動の場として提供していくことも必要であると考えています。今年度は図書館活動を支援くださる方々との協働の場作りを目指します。

3 特に重点をおいて取り組むサービス

(1) レファレンス（調査相談）サービス

18 年度に引き続き、レファレンスサービスに重点をおいて取り組んで行きます。18 年度の「来館者アンケート」では、「調査相談を使ったことがある」と答えられた方は 33%でしたが、41%の方は「使ってみたい」と答えています。この方々に実際に使っていただくためには何が必要なのかを考え、図書館を県民の様々な課題解決に役立つ施設としていきます。

(2) 市町村立図書館への支援、県域全体へのサービス

「協力・支援活動についてのアンケート」では、協力貸出を除く支援事業の周知度は高くありませんでした。まずは、市町村立図書館の方々にどのような支援をしようとしているのか知っていただくことが必要です。協力貸出については、搬送頻度を増やして欲しいという意見を始め、多くの意見をいただきました。こうしたご意見をできる限り取り入れサービスの充実をはかっていきます。

(3) 図書館活動を支援して下さる県民の方々との協働

今年度は、お話会と資料補修についてサポーター希望の方々を募り、催事の実施等で県民の方々との協働の場を作って行きます。

4 数値目標

(1) レファレンス件数

18 年度計画では、20 年度までの 3 年間で 33,000 件を超える数を目指すとしましたが、18 年度すでに 31,807 件まで達しましたので目標を上方修正し、19 年度で 33,000 件（前年比 104%）を目指します。

(2) 県内市町村図書館等への貸出冊数

18 年度は、13,056 冊で目標を達成しました。18 年度計画で示したよう、20 年度の目標数 14,000 冊とし、19 年度は 13,500 冊（前年比 103%）をめざします。

(3) お話会の参加者数

お話会は、子どもたちに本と図書館に親しんでもらう絶好の機会となります。19 年度からは、サポーターの方々の応援をいただき開催回数を増やしていき、子どもの参加者数を 18 年度の約 170% の 400 人以上にします。

(4) 来館者アンケート調査における「本と雑誌の量や種類」

来館者アンケートで重要度が最も高かった「本と雑誌の量や種類」については、18 年度の目標 3.2 ポイントを達成できませんでした。資料収集の充実は最も重要な項目であり、19 年度も満足度 3.2 ポイントを目標とします。